

アグリ ワーク ポイント AGRI WORK POINT



一番茶に向けた準備期間です

茶指導販売課 菊川



今月は、一番茶の摘採に向けて準備を進める時期になります。
厳しい寒さが続きますが、一番茶となる越冬芽は少しずつ休眠から目覚め、生育を始めます。茶園の状況をよく見て、生育に合った管理を行いましょう。

春整枝について

令和7年度の秋については、11月以降の気温がやや低く推移したため再萌芽した茶園はあまり多く見られませんでした。しかし、早い時期に秋整枝を行ったところなど状況によっては整枝を行う必要がありますので、茶園をよく観察して管理を行いましょう。

【再整枝（化粧ならし）】

再萌芽が多く見られた茶園で行います。

時期… 2月下旬～3月上旬頃

整枝位置… 整枝面を軽くならす程度

【春整枝】

秋整枝を行わなかった茶園で行います。

時期… 2月下旬～3月上旬

整枝位置… 三番茶未摘採園では二番茶の摘採

面から4～6cm上の高さ

三番茶摘採園では摘採面を軽くならす程度

春肥（1回目）の施用

春肥は主に、一番茶の収量・品質を向上させるため施用します。肥料成分を効率よく吸収できるように、適期施肥を行いましょう。また、施肥後は土壌とよく混和させることが大切です。

施肥量… 年間施肥量に対して窒素50%

・リン酸・カリ30%（目安）

時期… 2月上旬～中旬

使用資材… 5JA共通さかな配合 など

※近年、乗用型管理機の使用によって土壌が硬い茶園や、耕うんが不十分な茶園などが増えています。有機質肥料と組み合わせる施用し、土壌の物理性・化学性・生物性のバランスを整えて気象の変動に強い茶樹づくりを心がけましょう。